

# 令和元年度(2019年度)学校評価報告書

令和2年(2020年)3月9日

北海道札幌稲雲高等学校長  
狩野 康 弘

## 1 本年度の重点目標

1 自ら学ぶ意欲を育て、目的意識をもって継続的に学習する習慣を身につける。
2 自らを律する心と他者と交流する実践力を育て、望ましい人間関係を身につける。
3 社会の中での自己実現を考えさせ、進路目標の達成に努力する力を身につける。
4 自他の生命・自然を大切にすることを育て、健康・安全の習慣を身につける。
5 自ら考え行動する姿勢を育て、効率的に成果をあげる学習態度を身につける。

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育活動全体を通して組織的に行う人権教育の推進を掲げ、保護者や地域からの期待に応える取組を行った。進学指導体制については昨年度国公立大学に58名の合格者を出す(現役53名は過去最高)など、一定の評価を受けている。</li> <li>学校関係者の意見や教職員の議論を踏まえ、稲雲委員会において学校のグランドデザインの作成作業や、教育課程編成の方針の見直しを行った。</li> <li>勤務の効率化や平準化に努め、職員のワークライフバランスの確立等に向けた取組を行った。限られた時間でも質の高い教育活動をさらに推進する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートの回収率について、昨年度74%に対して今年度は66%に減少した。「入学させてよかった」が79%、「情報提供が十分できている」が80%など、高い割合を維持している。</li> <li>人権教育の視点から学校の教育活動を捉え直す視点はとても大切。今年度の文科省人権教育研究指定校の成果が次年度以降も活かされ、充実したものになることを期待する。</li> <li>生徒の可能性を広げ、進路希望を実現するだけでなく、社会を生き抜くための基本的な資質・態度を身につける教育をさらに推進していただきたい。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校のグランドデザインに基づく教育活動の評価を適切に行い、生徒の探究・体験活動を重視した取組を進める。</li> </ul>	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業を改善・工夫するための環境を設定できたか」が53%と大きく改善した。「学習習慣を確立できたか」(1年31%)、「家庭学習が自主的な学習へ変化しているか」(2年16%)、1・2年生の段階で学習習慣の定着と自主的に学習に取り組む姿勢の育成が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業・学習指導を通して、生徒の能力を十分に引き出すことができている。」(1年56%)、(2年54%)、(3年60%)、学習意欲の喚起と学力向上のために、授業改善を一つのテーマとして取り組んでいるが今後も粘り強く継続した指導を望む。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習意欲の喚起と学力向上のための授業の研修と実践を継続して進める。</li> <li>今年度より実施した公開授業における中学校との連携をさらに進め、授業改善の継続的な取組を行う。</li> <li>「総合的な探究の時間」や体験活動を充実させ、学習意欲の喚起につなげる。</li> </ul>	
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学年・クラス間の傾斜なく日常的に指導されていたか」(34%)が前年度より改善したものの全体として低調である。今年度より生徒会部を生徒指導部と統合する分掌再編を行ったが、役割分担等の改善が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「基本的生活習慣に関する指導が行われ、その成果が現れている。」(89%)、「健康指導や交通安全など、安全指導が適切に行われている」(85%)、生徒の通行マナーが改善され、地域住民より感謝の声が寄せられることもあった。交通安全指導の継続を望む。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織体制の改善を進め、教職員間の協力体制を確立する。</li> <li>自転車通学許可のルールを厳格化するとともに、安全マナー意識の一層の喚起を図る。</li> </ul>	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>「進路だよりを通して生徒及び保護者へ適切な情報提供をすることができたか」が66%と大きく改善するなど、全体的に高い割合だった。</li> <li>「進路の方向性を探究し自己決定する力を育成できたか」(2年)が44%と、昨年度より改善したものの低調であり、1・2年における進路意識の涵養が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学進学希望者クラス(Kクラス)の在り方や授業形態など、生徒の実態と合致したものになっているかの検証が必要である。</li> <li>将来を見据えた適切な進路指導が実践されている。特に、きめ細かな面接指導や発表する力を育てる指導が粘り強く行われていることが良好な進路実績に繋がっている。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入試改革の動向を見極め、適切な進路情報を生徒・保護者に提供する。</li> <li>各種委員会においてKクラスや授業形態等の検証作業を進め、生徒の実態に応じた指導体制を整える。</li> </ul>	
保健安全指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>「災害に備え、速やかに対応できる姿勢を身につけさせるための取り組みができたか」が66%と大きく改善した。</li> <li>「教育相談活動の充実を図ると共に、担任、学年、分掌との連携を促進することができたか」が78%と安定して高い割合である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の健康管理(視力の低下が増加傾向、口腔衛生は昨年度より改善)についてこれまで以上に指導を継続していただきたい。</li> <li>教育相談活動やスクールカウンセラーによるサポートが充実している。教職員のスキル向上への取組をさらにお願いしたい。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な教育相談活動の充実とスキル向上のための教員研修を継続して実施するとともに、不登校に対する初期対応や予防的対応の方策を具体的に検討する。</li> <li>学校全体で自己有用感や人権意識を高める指導を行い、生徒が健康や安全についての自己管理能力を高められるよう、支援体制のより一層の充実を図る。</li> </ul>	